

CASE STUDY 沖縄県立 那覇国際高等学校

ICT利用により、主体的・対話的で深い学びを

本校は平成28年からの5年間、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定され、国際社会で活躍する人材育成と語学教育を推進してまいりました。ICT推進校でもあり、生徒が各自の端末機器を利用できる「BYOD（Bring Your Own Device）」を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、全教職員協力体制のもと、生徒一人ひとりの進路実現に努めています。こうした教育方針から、校務を効率化し、教員がクリエイティブなことに使える時間を増やしたかったのです。



01 使うメリットの方が、デジタルへの苦手意識より大きかった



ABC-Z導入にあたっては、難しそうと尻込みする先生もいましたが、先生方が本格的に使うまでに要した時間は約2か月。使ってみると、とても簡単で、すぐにマスター。

スピードや正確さといった、使うメリットの方が、苦手意識よりも大きかったのだと思います。テストの問題作成・添削にかかる時間が今までの三分の一になったという声もありました。ICT担当の先生がお昼休みにミニ研修会を開いて、使い方や便利な機能を紹介・実演していたことも大きかったと思います。

- point ▶ 特別な機材が不要
▶ 使い慣れたWordでOK
▶ 使いやすさが実稼働への時間短縮を実現

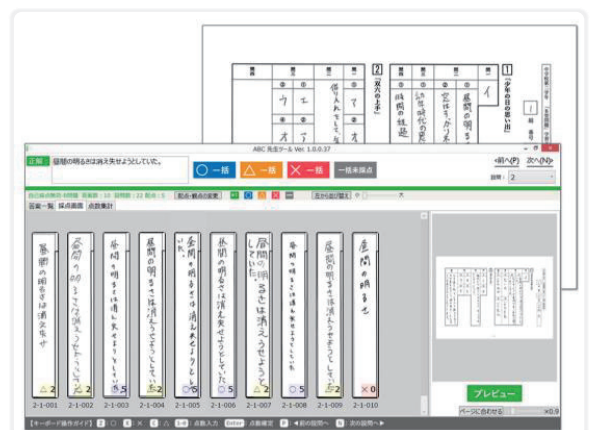
テスト問題の精度もあがり、生徒との対話も多くなりました。テストを通して得るものが格段に増えました。

02

校務軽減による教育環境の改善

ABC-Zによる自動集計は、選択式・記述式のどちらの問題にも使えるため、作問・採点・成績処理にかかっていた膨大な時間を大幅に削減してくれます。しかも、その精度が格段に上がります。

そこで生じた時間的余裕は、一人ひとりの生徒のために使えることとなります。ABC-Zの活用は、テストの質の向上・採点の正確さなど直接的にも、個人指導の時間確保や先生の健康など間接的にも、総合的な教育環境の改善に繋がると考えています。





ICT支援員
比嘉 朝香さん

校務がラクになるだけでなく楽しくなる。
先生たちの笑顔が増えました！

supporter's
voice

もし私が先生だったら”これは絶対便利!“という機能がABC-Zにはたくさんあります。小テストをデータでためて分析したり、記述テストが効率よく実施できたり。先生の想像力が膨らむのか、”これできる？”と前向きな質問をもらうことが多いのが、ABC-Zの特徴です。私自身も、課題と一緒に解決していく喜びがあります。早さと効率に加え、先生が校務を楽しんで行える。笑顔が増える。これで生徒の成績が上がるとさらにやりがいを感じますね。

03 先生の校務負担を削減したら、生徒の”学び方”にも改革が！

大量のテスト結果を効率的に分析でき、感覚ではなくデータに基づいた振り返りを行えます。生徒が忘れないうちに、すぐフィードバックできるのは復習・学習内容の定着に効果的です。

(数学科 教諭)

ABC-Zは記述式で特に威力を発揮するので、記述式の問題を必要とする英語や国語などに活用することで、生徒の考える力や個性を伸ばす場面でもその効果を期待できそうです。今後は、体育などほかの教科での活用も考えています。(英語科 教諭)

問題番号	正答者数	回答者数	未採点	正答率	平均点	平均点率	正解
1	6	2	0	67%	71%	3.8	
2	4	2	0	44%	59%	2.9	
3	4	3	0	44%	53%	2.7	
4	4	5	0	44%	44%	2.2	
5	1	5	0	11%	11%	0.8	
6	7	2	0	78%	78%	3.9	
合計	26	17	0	53%	53%	2.7	

合計点	合計 得点率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
60	60%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50	50%	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
40	40%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
30	30%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
20	20%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10	10%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

豆テスト後のアクティブ・ラーニングが正確かつスピーディに 04



数学の授業で採用しているアクティブ・ラーニングでは、先生がテーマを示し、生徒達がディスカッションしながら、クラス全体で復習を進めます。そのために、定期考査前の豆テストの結果を分析し、そのクラスの苦手な問題を把握しています。

ABC-Zで集計したデータによって、各クラスの正答率の低い問題が明確になるため、先生はクラスごとに効果的なテーマを提示することができます。また、採点・集計が早くできることで生徒達は、記憶が新しいうちに復習に取り組めるため、学びの質が高まっています。

取材協力：沖縄県立 那覇国際高等学校

Zetta ゼッタリンクス株式会社
<https://www.zettalinx.co.jp/>

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里5-14-4 KYビル5階/6階
TEL. 03-5615-3761 FAX. 03-5615-3762

■ 大阪営業所
〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島3-18-9
新大阪日大ビル5階501号
TEL. 06-6195-3901 FAX. 06-6195-3902

■ 福岡オフィス
〒810-0042
福岡県福岡市中央区赤坂1-14-22
センチュリー赤坂門ビル6階B-4号室
TEL. 092-707-0356 FAX. 092-707-0357

■ 仙台オフィス
〒980-0021
宮城県仙台市青葉区中央2丁目7-30 角川ビル215
(株式会社データベーステクノロジー内)
TEL. 022-349-5659

● Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。● 記載されている法人名、団体名および商品名などは、一般に商標または登録商標です。